

2009年11月17日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F・Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

## 樹脂・コンパウンドの世界市場を調査

### 2013年予測

樹脂・コンパウンドの世界市場は、2,424万トン、7兆5,598億円  
 注目市場“バイオプラスチック”は、32万トン、1,570億円

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、このほど樹脂・コンパウンドの世界市場とメーカーの事業戦略を調査した。その結果を報告書「2010 コンパウンド市場の展望と世界戦略」にまとめた。

この報告書では、樹脂・コンパウンド市場として汎用樹脂コンパウンド5品目、汎用エンブラコンパウンド7品目、スーパーエンブラコンパウンド5品目の計17品目と、別途注目されるバイオプラスチック、難燃剤の2品目の市場を調査・分析した。また、世界に展開する日系及び海外の有力な樹脂・コンパウンドメーカー144社の事例分析を行った。

#### < 調査結果の概要 >

樹脂・コンパウンドの世界市場

	2008年	2013年予測	2008年比
汎用樹脂コンパウンド	1,934万t	2,086万t	107.9%
汎用エンブラコンパウンド	305万t	318万t	104.3%
スーパーエンブラコンパウンド	15万t	19万t	126.7%
合計	2,253万t	2,424万t	107.6%

2008年の樹脂・コンパウンドの世界市場は、2,253万トン、7兆1,919億円となった。2009年は数量、金額共に前年の9割程度まで落ち込むと見込まれる。2013年にはトータルで2,424万トン、7兆5,598億円となるが、品目によっては市場の回復が遅れるものもある。

汎用樹脂コンパウンドを大量に消費している中国が、2008年数量ベースの33%を占める最大市場である。エンブラコンパウンドだけを見ると、米国、欧州、中国がそれぞれ70万トン前後を消費する3大市場である。

#### 汎用樹脂コンパウンド

汎用樹脂コンパウンドは、塩ビ（PVC）コンパウンド、アクリロニトリルブタジエンスチレン（ABS）コンパウンド、ポリプロピレン（PP）コンパウンド、ポリエチレン（PE）コンパウンド、ポリスチレン（PS）コンパウンドの5品目を対象としている。

2008年の市場は、前年比1.9%減の1,934万トンとなった。2009年は数量、金額共に前年比10%程度の落ち込みが見込まれるが、2010年以降は回復に向かい、2012年には市場規模が2,000万トンを超える見通しである。

汎用樹脂コンパウンド市場ではPVCコンパウンドとABSコンパウンドが圧倒的なシェアを占めている。PVCコンパウンドは欧米・中国で需要が高い。2008年の市場は伸びたが、2009年は縮小すると見込まれる。

PPコンパウンドは自動車部品向け、PEコンパウンドは電線向け、PSコンパウンドはTV外装向けと主要用途がはっきりしている。これに対して、ABSコンパウンドは使い勝手の良さとグレードの種類に幅があり多様な用途展開が期待される。

#### 汎用エンブラコンパウンド

汎用エンブラコンパウンドは、ポリカーボネート（PC）コンパウンド、ポリブチレンテレフタレート（PBT）コンパウンドなど7品目を対象としている。

2008年の市場は、前年比1.9%減の305万トンとなった。需要は2010年以降回復に向かい、市場は2013年以降にはピークであった2007年の規模を超えると見られる。

汎用エンブラコンパウンド市場ではPCコンパウンドが86万トン(2008年)、PBTコンパウンドが67万トン(同)と、2大市場となっている。共に2008年、2009年と縮小するが、PC/ABSコンパウンドが電気・電子部品向けで需要が拡大している。PBTコンパウンドは今後自動車電装化の進展により、コネクタやソケット類など自動車部品向けで需要増が期待される。

PCとABSを複合化したPCコンパウンドのグレード

#### スーパーエンブラコンパウンド

スーパーエンブラコンパウンドは、ポリフェニレンサルファイド(PPS)コンパウンド、液晶ポリマー(LCP)コンパウンド、ポリアミド46(PA46)コンパウンド、ポリアミド6T(PA6T)コンパウンド、ポリアミド9T(PA9T)など5品目を対象としている。

コネクタ類の電気・電子部品向けを主とするスーパーエンブラコンパウンドの2008年の市場は、前年比11.8%減の15万トンとなった。2009年は更に縮小すると見込まれるが、2009年半ばから中国の家電下郷政策の効果もあり、回復へ向いつつある。

スーパーエンブラコンパウンド市場で最大規模を誇るPPSコンパウンドは、2008年、2009年と続けて縮小するが、中国・アジアで電気・電子部品向けの需要が伸びている。また、先進国ではハイブリッドカー用部品向けの採用が進んでいる。LCPコンパウンドは、2008年に横ばいで、2009年に縮小が見込まれるが、コネクタやリレー等の小型電子部品向けの採用が進んでいる。電気・電子部品向けと自動車用部向けの両方に採用されているPA6Tコンパウンドは、2008年、2009年と続けて縮小する。PA9Tコンパウンドは、2008年に前年比40%近い縮小となったが、2009年はコネクタに加えてLED向けの需要も急拡大しており前年比50%増、以降も需要の拡大が見込まれる。

#### 1) PPSコンパウンド

2008年	2013年予測	2008年比
6.0万t	7.6万t	126.7%

2008年の市場は後半からの世界的な不況の影響により前年比17.8%減の6.0万トンとなった。2009年も後半に回復へ向かい始めたものの、前年比16.7%減となる見込である。2010年以降には主力用途である自動車部品と電気・電子部品の生産が中国・アジア地域で持ち直すと見られる。

国内では自動車用部品向けが高い比率を占めている。2008年、2009年と景気の低迷が続いたことから、需要の回復は2010年以降になる見通しである。ハイブリッド自動車には長期耐熱特性に優れるPPSが多く使用されるため、今後の需要の拡大が期待できる。電気・電子部品向けでは、ユーザー(製造メーカー)の海外移転やノンハロゲンニーズによるLCPへの置き換えがマイナス要因となっている。

#### 2) LCPコンパウンド

2008年	2013年予測	2008年比
3.3万t	4.0万t	121.2%

2008年の市場は、前半に前年以上の大幅な伸びがあったため、通年では前年比横ばいの3.3万トンとなった。しかし、2009年は前年比18.2%減となる見込である。市場は2010年以降回復に向かう。今後の市場の牽引役は精密小型電子部品の生産が拡大している中国・アジア地域となる。

国内市場も2010年以降プラスとなるが、伸び率は世界市場の伸び率を下回る。ノンハロゲンニーズの高まりでPPSコンパウンドから需要の移行もあるが、ユーザーが中国・アジアへ生産拠点を移転しているため、伸び率は低くなると見られる。今後の成長の鍵を握るのは、付加価値の高いハイエンド小型電子部品やLED向けの新規グレードの開発と見られる。

#### <注目市場>

##### 1. バイオプラスチックの世界市場(樹脂・コンパウンドの世界市場には含まれていない)

	2008年	2013年予測	2008年比
数量	17.4万t	32.0万t	183.9%
金額	900億円	1,570億円	174.4%

市場はコンパウンド品だけでなく、レジンも含めている。2008年の市場は、数量ベースで前年比13.7%増、金額ベースで同12.5%増と、世界的な不況の中でも拡大となった。バイオプラスチックはバイオマスを原料とすることから、地球温暖化対策の点で注目されている。農業用フィルムやレジ袋・ゴミ袋向けなど、欧州を中心に需要が拡大しているが、世界的な環境政策や自発的意識の向上により、今後更に拡大する可能性がある。

欧州で需要が高いのは、行政を含めた社会全体での環境対策への取り組みが進められていることからである。欧州に次ぐ需要地の米国では西海岸を中心にバイオプラスチックの認知度がアップし、採用が広がり始めている。

国内市場は、農業用フィルム向けを中心に1万トン程度の市場規模である。幅広い用途で採用が少しずつ進んでいるが、行政との連携がない点や、高価格であること、社会的認知度が低いことなどから、当面市場は微増で推移していくと見られる。

以上

<調査対象>

調査対象品目

汎用樹脂コンパウンド	PP、PE、PS、ABS、PVC
汎用エンブラコンパウンド	PC、POM、PBT、PA6、PA66、m-PPE、GF-PET
スーパーエンブラコンパウンド	PPS、LCP、PA46、PA6T、PA9T
その他	バイオプラスチック、難燃剤
事例研究対象企業	144社

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献を併用

<調査期間>

2009年7月～10月

資料タイトル：「2010 コンパウンド市場の展望と世界戦略」

体 裁 : A4判 330頁

価 格 : 97,000円(税込み101,850円)

CD-ROM付価格117,000円(税込み122,850円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部

TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>